



E-mail : office@hrcg.jp
電話 : 080-5830-2016

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター
Hokkaido Research Center of Geology

HRCG 通信

第8号

2022年9月9日

会員の声 特集号

本センターは、今年になって8名の新入会員を迎えました。そこで本通信では、新入会員とともに、これまで紹介されていない会員に、近況や本センターへの期待や要望を募集いたしました。これまでに寄せいただいた寄稿文を紹介いたします。ご協力いただいた皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

会員紹介・会員短信

このたび一般会員に加えていただいた太田勝一です。どうぞ、よろしくお願いします。2011年までは、江別市にある家で地質コンサルの一人会社をやっていました。2011年に3.11津波の惨状を報道を見て、何かしなければならぬと強く思い、北海道厚真川で津波堆積物の調査を始めました。その後、実家の母親の介護と、信州大学の社会人ドクターコースへの入学のために、長野県に単身赴任しました。コンサル会社勤めをしながら、保柳康一先生のご指導のもとで研究を続け、62歳で学位を何とか取得しました。

現在は、大町市にある山岳博物館というところで地質の専門員をしています。山岳博物館では現在、私が担当する企画展「仁科(にしな)三湖の成り立ち」を開催しています。仁科三湖とは、長野県北部に位置する青木湖・中綱湖・木崎湖を指します。これらの湖の形成過程は、これまでほとんど分かっていませんでした。そこで、新たに50日間の現地調査をして、自分なりの仮説を立てました。関心のある方は、博物館のHP (<https://www.omachi-sanpaku.com/>) をご覧いただければ幸いです。 太田勝一 (一般会員)



企画展の現地見学会の様子

HRCGにおきましては、知識・経験が豊富な諸先輩方の見識を少しでも覚える機会があればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

現在、アースサイエンス(株)に所属し、地熱開発関係のカッティングスの実体顕微鏡観察、コア観察、岩石薄片の偏光顕微鏡観察、地表踏査などで1年の大半を過ごしており、地熱漬けの毎日です。

学生時代は、未分化玄武岩という興味深い題材にめぐり会うことができ、道北の中新世火山岩の岩石学的研究をしておりました。今でも踏査で玄武岩をみるとワクワクします。

最近、地熱の仕事の関係上、地層の年代決定の必要性があり、珪藻化石にも興味が湧き始めている今日この頃です。

菅原 誠(一般会員)



地熱井から採取されたスポットコア中の開口亀裂の壁面から成長する自形石英。写真の長辺がおおよそ12.5mm



一般会員
村元 健治

この度、HRCGに入会させて頂きました村元です。地学とは余り縁の無い仕事に就いていましたが、定年後に入会した郷土史研究と自然観察関係の組織に所属していますが、地学・ジオに関わることも出てきました。

それは、地元にある手稲鉱山に絡む金等の鉱床が生成される過程とか、過去、現在の地形、地質等の自然の変化・推移などについて知っておく必要に迫られました。現場の視察研修で観た小樽忍路海岸にある枕状溶岩の痕跡と新冠で見た日高山脈生成の際に生じた「かんらん岩」については強く印象に残っています。

それ以来、一層、ジオに関する関心が高まってきましたが、今後の貴センターの取り組みとして望むことは、市民を対象とした易しく、親しみのあるジオ現場観察会を開催して、ジオファンを一層増やして欲しいものです。



一般会員
赤松 周平

一般会員として加入いたしました。現在、(株)日さく東日本支社に所属し、大宮で単身生活中です。1981年から北海道にいましたが、2018年に関東の会社（今の所属とは別）に転職、現在に至っております。年齢は66歳です。遠方におり、基本的にリモート参加ですが、皆様のお話を楽しみにしております。



一般会員
小林 哲夫

10年ほど前から、カルデラ噴火の地質学的な前兆を捉えるという研究を続けています。カルデラ噴火の発生場所は限定されるため、展望のない荒唐無稽な挑戦ではありません。また鬼界、クラカタウなど海域火山のカルデラ形成噴火で発生した大津波の成因にも取り組んでいます。どれも大風呂敷を広げるようなテーマですが、着実に成果をあげつつあります。ずっと鹿児島ですが、昭和新山の誕生にも強い関心を持っています。



一般会員
佐藤 則則

先日、ひよんなタイミングで同期生の嵯峨山副理事長に誘われて、一般会員として末席を汚すことになってしまいました。学生時代は全然勉強せず、卒業後はずっと民間会社で土木地質の仕事に携わってききましたので、アカデミックな地質学からはかなり遠い世界におります。最近ではもっぱら地球科学全般を含めた広範囲の情報を渉猟し、柄にもない思いにふけることが多くなりました。



一般会員
田近 淳

こんにちは。一般会員の田近です。週3日は会社勤め（大半はリモートなので出社は週1〜2日ですが）、残りは家事・介護に、畑と忙しい毎日を過ごしています。8月11日の道北の地震は間寒別断層帯に関連した活動のようですね。サロベツ断層帯との関係も気になります。15年前の中間寒のトレンチ調査を思い出しています。

第4回論文輪読会

7月17日に対面とオンライン併用のハイブリッド形式で行われ、発表者を含め8名の参加でした。

1. 君波和雄：国後島北部に分布する花崗岩質岩のジルコン U-Pb年代に関する研究報告
千島列島の形成史が、31Ma(前期漸新世)にまで遡ることを明らかにし、新しい年代報告を含む興味深い内容でしたが、本文と図説との不一致など論文の問題点の指摘もありました。
2. 岡村 聡：高濃度核廃棄物地層処分についての適地選択に関する研究報告
フィンランドのオンカロや中国で用いられている各種の基準を紹介しながら、文献調査候補地の寿都や神恵内における適地性についての問題を浮き彫りにしていました。

それぞれの紹介論文の詳細は、HRCGのホームページに掲載されています。（担当：高波 鐵夫）

第17回研究セミナー

7月30日に対面（かでる2・7）とオンライン併用で研究セミナーを行いました。新型コロナが長引く中にありながら、参加者は14名（うち2名はオンライン参加）で、活気あるセミナーとなりました。講演は以下の3件で、専門性の高い内容もありましたが、それぞれ活発な質疑がありました。

1. 宮坂省吾：都心にあった幻の川
2. 関根達夫：真駒内用水と精進川を歩く（地下鉄真駒内駅～地下鉄幌平橋間）
3. 宮下純夫・足立佳子・金子 龍：オフィオライトにおける特異なハルツバージャイトの出現とその成因
（担当：嵯峨山 積）

本通信は以下のURLにも掲載されています
<https://hrcg.jp/archive.html>

HRCGホームページをリニューアル

主なものは、ブラウザの表示幅に対応、『総合地質』のページの整理、北海道の地質と地形を紹介するスライドショーをトップページ (<https://www.hrcg.jp/>) に導入、などです。これは、情報基盤担当（川村さん）の多大なる貢献によるものです。ご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。（担当：中川 充）



今回の通信第8号の目玉は、新入会員を含む「会員の声」特集号です。地形・地質に関心を持つ多彩な会員が加わり、より一層の厚みが増してきました。地質分野は、一般には馴染みにくいと思われがちですが、私たちの生活には欠かせない分野でもあります。会員の皆様の期待にこたえられるよう、より一層活動の幅を広げる必要を実感しています。今後とも忌憚のないご意見とご支援をお願いいたします。（岡村）